

| 羅 針 盤 | | | 方 策 | 点検・評価 | | 達成度 | 達成状況のまとめ及び次年度の課題 | 学校関係者評価 |
|----------------------------------|-----------------------------|--|--|-------|----------|-----|---|---|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | | | |
| I 特色ある学校づくりに努めていますか。 | 1 特色ある教育活動を行っていますか。 | ○各教育活動に満足している生徒が80%以上である。 ○自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。 | ○学校行事や授業について各部において見直しや検討をし、内容の充実と改善を進める。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ5類移行に伴い平時に戻しつつも、コロナ禍で学んだノウハウを活用し教育活動を企画、実践した。本校の教育活動に満足している生徒95%以上、保護者も約95%以上と高い評価が得られている。次年度も継続したい。 ・生徒の自主性を尊重し互いに切磋琢磨できる校風や多様性に配慮した教育活動について多くの生徒が満足しており、結果として約91%の生徒が本校が好きだと答えている。 ・質の高い授業の実践に向けて、教員相互の授業見学や授業アンケート等を積極的に活用し授業改善に努めた。 ・校訓や教育目標に沿った「育成したい生徒像」「実現に向け実施する教育活動」「志願して欲しい生徒像」を教員間の意見交換や生徒や保護者の意見を踏まえ、スクールポリシーという形で策定した。次年度以降周知させたい。 ・SSHの満足度は88%となった。生徒の課題研究におけるやり直し回数については、平均4.7回と、これまで以上にやり直しの機会を提供することができた。また、発表形式を変え、試行錯誤の過程を定量的に評価可能になったことで、生徒の30%以上が困難を避けるような工夫を行っていたり、そもそも困難にぶつかっていない等の課題があることが分かった。次年度は、試行錯誤の質に焦点を当てて、研究開発を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の満足度の高さが素晴らしい。 ・前女のような能力の高い生徒が高い満足度で学校生活を送ることができると感じさせる学校運営に対して先生方の日頃のご尽力に敬意を表し感謝します。 ・満足していない生徒の具体的な意見とサポート（教員のみでなく）が必要。自己への評価向上を目指して目標ノートの活用など。 |
| | | ○授業の質の高さに、満足している生徒が80%以上である。 | ○各教科・科目で、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の研究と導入に取り組む。 | A | A | A | | |
| | | ○SSH参加生徒の80%以上がその事業内容に満足している。 | ○全校体制でSSH事業に取り組み、生徒の多面的思考力と自己調整能力、挑戦し失敗から学ぶとする態度を育成する取組を充実させる。 | A | A | A | | |
| II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。 | 4 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 | ○校訓や教育目標が生徒に理解されるように努めていますか。 | ○学校通信や学年通信、保護者集会等で教育目標を積極的に提示し具現化する。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会時に3年ぶりの保護者への授業公開、教科を越えた相互の授業参観、校長による授業観察など様々な視点から授業を見ていただいた。教職員はそれを生かして生徒にとってより良い授業を日々模索している。次年度も継続したい。 ・生徒の進路希望実現のために、授業を中心に補習や個別指導などを組み合わせた本校の丁寧な学習指導に、93.7%の生徒が満足している。 ・授業については92.9%の生徒が達成感、満足感を感じている。一方、平日3時間以上家庭学習を行っている生徒は3年生では96.5%に上がったが、1・2年生では約65%であった。 ・次年度は、家庭学習習慣の定着を目指す支援を通じ、本校生徒に求められる学力の定着を図り、学力の二極化を防ぐとともに、きめ細やかな対応をとっていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望実現に向けた学習指導は現実にも多岐にわたり難しいことと思います。先生方の日常のご指導の大変さがうかがわれます。 |
| | | ○学習への達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。 | ○授業改善のための授業公開や授業研究を各学年、年2回以上実施している。 | A | A | A | | |
| | | ○学習内容の定着を図り、家庭での1日当たりの平均学習時間が3時間以上である。 | ○進路希望実現に向けた学習指導に、生徒の80%以上が満足している。 | A | A | A | | |
| III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。 | 6 組織的・継続的な指導を行っていますか。 | ○一連の学習活動（課題設定、調査・検証、まとめ、発表等）に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒が80%以上である。 | ○学年、運営委員会、拡大教育相談会議等で、定期的に生徒の情報交換を行い、重要な情報については職員会議等の場を通じて全職員の共通理解を図る。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会、職員会議、学年会議で生徒の情報交換を行うとともに、月に1～2回拡大相談会議を開き、情報共有を行なった。また、個別事例については関係者によるケース会議を随時行った。カウンセリング後のブリーフィングに、担任や学年主任が参加し、より密な情報共有ができた。また、通級の生徒についても、情報共有の体制があり、通級指導に向けた共通認識も醸成できた。来年もこの体制をさらに充実させたい。また、発達障害に関する職員研修を実施したい。 ・生徒会行事関係では、コロナ対策を徹底しながら、新入生歓迎会や予餞会を開催でき、光慧祭も情報課の協力を得て、招待制で外部のお客さんをお呼びすることができた。光慧祭では、総務の生徒と職員がGoogle Classroomと対面会議の併用で会議を進めるなど、職員・生徒が協力しながら、行事を創り上げていった結果、約93%の生徒が充実感を感じている。来年度は、さらに生徒の主体的な活動の場が増えるよう、取り組んでいきたい。 ・体調不良や不登校傾向等を除けば、遅刻をしないという雰囲気や学校全体としてできている。 ・定期的に身だしなみ指導を行い、服装をきちんとして落ち着いた雰囲気や学習に取り組めていた。あいさつ運動は、年度当初の部活動紹介のみであったが、明るい雰囲気で行えた。来年度は、あいさつ運動が効果的な取り組みも含めて検討したい。 ・アンケートを実施していじめの発見に努めて早期対応に努めるなどの取組を行い、約91%の生徒がいじめ対策は充実していると答えている。来年度もアンケートや二者面談などで予防と早期発見に努め、適切な対応を行いたい。 ・生徒との面談を丁寧に行い、日常的に教員に相談しやすい雰囲気や醸成を図るとともに、スクールカウンセラー等の教育相談の活用も促した。ただ、前年度に比べ、相談しやすいと思わない生徒が増加しており、10人に1人が相談しやすいと感じていない。来年度は職員間でその対応を考えたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の前女生活の中で自ずと前女精神が涵養されます。それが後の卒業生の人生の生きる支えとなります。非常に重要な課題と考えます。 ・生徒の行動を、即時全て学校が考える枠に収めようとするのはどうか。多少の余裕をもって生徒を見守り、ある程度の自主性（たとえ少し枠からはみ出しても）を尊重し、自分で気づかせることも必要。 ・意見を言える子は勇気がある子であり、一般的には自ら意見を言う子は少ない。いかに聞き出せるかが成否の課題と思う。 ・服装やマナー等はかなりよくなったと認識している。 |
| | | ○家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による遅刻をなくし、1日の平均遅刻者は全体の2%以下である。 | ○授業、学校行事、生徒会活動・部活動等が充実していると評価する生徒が80%以上である。 | A | A | A | | |
| | | ○服装やマナー、あいさつの指導を適宜行う。また、HRや集会等での服装指導を行うとともに、各学期ごとに生徒主体のあいさつ運動を実施する。 | ○生徒による企画運営を尊重する環境作りを努める。 ○部活動・生徒会活動の振興のための環境整備をする。 | A | A | A | | |
| IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。 | 9 計画的な指導を行っていますか。 | ○学校のいじめの防止や早期発見に向けた取組が充実していると評価する生徒が80%以上である。 | ○生徒会や生活委員会を中心に主体的にいじめ防止の啓発活動に取り組む。また、生徒が職員に気軽に相談できる体制を作り、いじめの防止、いじめの早期発見に努める。いじめには組織的に対応する。学校の取組について保護者にも周知する。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学年、運営委員会、拡大教育相談会議等で、定期的に生徒の情報交換を行い、重要な情報については職員会議等の場を通じて全職員の共通理解を図る。 ・生徒による企画運営を尊重する環境作りを努める。 ・部活動・生徒会活動の振興のための環境整備をする。 ・原則として遅刻が月5回を超える生徒に対しては段階的に指導を継続し面談、保護者連絡等を徹底させる。 ○「あいさつ」を活発に交わせる校内の雰囲気や醸成し、服装やあいさつについて生徒の意識を向上させる。 ○服装や頭髪の乱れがない常時全職員で確認し乱れがあれば即時指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の前女生活の中で自ずと前女精神が涵養されます。それが後の卒業生の人生の生きる支えとなります。非常に重要な課題と考えます。 ・生徒の行動を、即時全て学校が考える枠に収めようとするのはどうか。多少の余裕をもって生徒を見守り、ある程度の自主性（たとえ少し枠からはみ出しても）を尊重し、自分で気づかせることも必要。 ・意見を言える子は勇気がある子であり、一般的には自ら意見を言う子は少ない。いかに聞き出せるかが成否の課題と思う。 ・服装やマナー等はかなりよくなったと認識している。 |
| | | ○家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による遅刻をなくし、1日の平均遅刻者は全体の2%以下である。 | ○「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。 | A | A | A | | |
| | | ○服装やマナー、あいさつの指導を適宜行う。また、HRや集会等での服装指導を行うとともに、各学期ごとに生徒主体のあいさつ運動を実施する。 | ○学年、運営委員会、拡大教育相談会議等で、定期的に生徒の情報交換を行い、重要な情報については職員会議等の場を通じて全職員の共通理解を図る。 | A | A | A | | |
| V 開かれた学校づくりに努めていますか。 | 11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。 | ○「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が90%以上である。 | ○地域の人材や保護者、卒業生、大学関係者等を講師として積極的に活用する。 ○オープンキャンパスへの参加や大学情報を入手するためのインターネットの活用を推進する。 ○模試や各種統計資料により生徒の学力分析を行い、課題を明確化する。 | B | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会や講演会、大学別のセミナー等を開催した。模試結果を分析して教員間で共通認識を持ち統一した指導を行うように努めた。 ・三者面談等を活用して生徒・保護者の意思疎通、共通認識の形成を図り、生徒・保護者とも91%以上が互いに将来の志望を理解していると回答している。 ・定期的に進路通信や学年通信を発行し、HPにも掲載することによって保護者にも進路情報が届くように努めた。 ・様々な進路行事を通じて「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を生徒に幅広く考えさせた。87%以上の生徒が進路実現に向けて積極的に取り組んでいると答えている。 ・次年度に向けて各分野の最先端で活躍している著名人や卒業生との交流を通じてキャリア教育を充実させたい。さらに大学選びを通して生徒に将来の生き方を考えさせたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学と真の自己実現をめざし、前女生がより豊かな人生が生きられるよう創造的、個性的な人間性の涵養を望みます。 ・「適性」を生徒も先生も知り、対話をして欲しい。生徒は自分の適性を本当はわかっていない場合もある。「将来何をやりたいか？」学校ありきでなく。 ・16-18才という多感な中で将来を語る（大志）が持てる子は少ないと考えます。広い世界から適合する道を見いだす過程と言えます。幅広い考えが持てる様に誘導するのがよいと思います。 |
| | | ○進路通信や学年通信等を通じて、年6回以上、学年に応じた進路情報を生徒や保護者に提供する。 | ○学校評議員会、SSH公開発表会の日程に合わせ、「授業公開」を行う。 | A | B | A | | |
| | | ○保護者や地域社会の方、同窓生を講師にした講演会などを年3回実施する。 | ○個人情報に配慮しながら、学校行事や部活動の様子、進路情報等最新の情報を発信する。 ○学年の特長や取組状況、行事等の様子を随時情報発信する。 | A | A | A | | |
| VI 教育のデジタル化に努めていますか。 | 13 ICTを活用した指導を行っていますか。 | ○保護者や地域社会の方、同窓生を講師にした講演会などを年3回実施する。 | ○進路講演会や「キャリアガイダンス」、保護者や地域社会の方の講演会を実施する。また同窓生による講演会を計画する。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会時の学校公開、中学生への学校説明会への保護者参加、WEBページの更新、学年や分掌による通信などを通じて保護者や地域に情報を発信することができたが、学校評価の結果から見ると生徒の満足感が不足していることが今後の課題である。 ・各学年とも的確なタイミングを見計らって計画的に学年通信や進路通信を発行し、生徒の進路意識の向上や情報提供に役立てた。 ・保護者を講師とした進路講演会や卒業生による座談会、大学教授を招いての模擬授業等、ほぼ対面による通常の形態で実施することができた。 ・次年度に向けて、OGによる人材バンクなども活用しながら、多様な講演会や座談会の実施を模索していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の方々への前女教育への深い理解と協力に対し感謝します。 ・外部から講師を招いての講演会はいいことと思うが、講師の選定においては慎重であるべき（選定の基準はどうなっているのか）。講演会開催後は生徒からのアンケートなどを実施し生徒の反応を知ることが必要だと思う。 ・女子校という特別な環境下にあるため地域とのコラボは難しさがある。 |
| | | ○生徒が学習用端末を毎週利用している。 | ○授業、進路学習、行事等で積極的に活用する。 | A | A | A | | |
| | | ○生徒のSNSによる交流や情報発信を年5回以上実施している。 | ○講演会や研修会等に参加するよう指導する。また、各種行事の動画配信を計画する。 | A | A | A | | |
| 14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。 | 14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。 | ○ICT機器を使ったことがある授業が90%以上である。 | ○ICTの効果的な活用に係る授業改善を踏まえた指導をする。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業、科学的探究等の活動で、生徒用端末を活用して、データの共有やドキュメントの共同編集、Classroomでの情報発信をした。次年度も活用を推進し授業の改善に努める。またWebサービス、オンラインシステムの活用をさせる。 ・SSHの活動や部活動、各種校外活動やイベントに参加した。学校説明会の動画配信を行った。今後も継続していきたい。 ・97%の授業でICT機器の活用があった。今後も活用を推進し、校内研修や公開授業等を実施しICTを活用した指導力向上に努める。 ・保護者宛通知や進路通信、学年通信において、すべての通知がオンラインと紙の通知を同時に行った。HPでのお知らせやオンライン配信、GSNメールでの連絡を行うことができた。継続して、デジタルによる情報共有を行う。 ・各種アンケートや授業において、googleフォームを利用したアンケートが目標を上回り実施されている。 ・メール連絡網での欠席連絡の割合が90%以上となった。電話対応業務の大幅な軽減ができた。次年度も保護者通知やアンケートフォームのデジタル化を継続して行う。 ・ペーパーレスの職員会議を12回実施した。今後も継続してデジタル化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用は進めるべきだが、一方で対面や対話による直接コミュニケーションが薄くなっていく可能性がある。しかし実社会においてやはり強みとなるのは「コミュニケーション力」。その点のバランスを考えて指導してもらいたい。また、メール文章のマナーなど高校生のうちから指導しておくことで将来役立つように思う。 ・前女HPへのアクセス数が多く、保護者・生徒を含め十分にネットが活用されていることがうかがえます。 |
| | | ○おたけによる通知の割合が80%以上である。 | ○保護者への通知等にメールやHP等を積極的に活用する。 | A | A | A | | |
| | | ○おたけでのアンケートを年5回以上実施している。 | ○各種調査にGoogleフォームを活用する。 | A | A | A | | |
| 14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。 | 14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。 | ○おたけによる欠席連絡の利用者の割合が80%以上である。 | ○学期始めや感染症等の流行時に、ぐんまスクールネットメール連絡網の利用を適宜周知する。 | A | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・メール連絡網での欠席連絡の割合が90%以上となった。電話対応業務の大幅な軽減ができた。次年度も保護者通知やアンケートフォームのデジタル化を継続して行う。 ・ペーパーレスの職員会議を12回実施した。今後も継続してデジタル化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用は進めるべきだが、一方で対面や対話による直接コミュニケーションが薄くなっていく可能性がある。しかし実社会においてやはり強みとなるのは「コミュニケーション力」。その点のバランスを考えて指導してもらいたい。また、メール文章のマナーなど高校生のうちから指導しておくことで将来役立つように思う。 ・前女HPへのアクセス数が多く、保護者・生徒を含め十分にネットが活用されていることがうかがえます。 |
| | | ○おたけ以外の職員会議等を9回以上実施している。 | ○校内LANや「クラウド」を利用して「ペーパーレス」化を推進する。 | A | A | A | | |
| | | ○おたけ以外の職員会議等を9回以上実施している。 | ○校内LANや「クラウド」を利用して「ペーパーレス」化を推進する。 | A | A | A | | |